

土砂災害に関するシンポジウム論文集の 和文原稿作成例

PRINT SAMPLE OF JAPANESE MANUSCRIPT FOR PROCEEDINGS OF SYMPOSIUM ON SEDIMENT-RELATED DISASTERS

薩摩 隼人¹・土木²・砂防³

Hayato SATSUMA, Civil ENGINEERS and Erosion CONTROL

¹鹿児島大学学術研究院理工学域工学系 (〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-40)

E-mail: satsuma@oce.kagoshima-u.ac.jp

²九州大学大学院工学研究院 (〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地)

E-mail: civil@civil.kyushu-u.ac.jp

³鹿児島大学農学部 (〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24)

E-mail: erosion@agri.kagoshima-u.ac.jp

Key Words: *urban flood, simulation model, resistance rule, inundation, underground space*

1. ページ設定とページ数

マージンは左右が 20 mm, 上方が 20 mm, 下方が 25 mm 程度とし, 2 段組で 1 段 25 文字 50 行を標準とします. 段幅は約 82 mm, 段間隔は約 6 mm です. ページ総数は 6 ページ以下とし超過は認めません.

2. タイトルページ

タイトルページは 2 つの部分で構成されます.

(a) タイトル部分 (題目, 著者, 所属, E-mail address, キーワード): 横 1 段組

(b) 本文部分: 横 2 段組

このほかにヘッダが付きます. なおソフトウェアによっては, タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれることがあります.

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトル部分の左右のマージンは, 本文の左右のマージンよりもそれぞれ 1 cm ずつ大きくとって下さい. したがって, A4 用紙の幅に対して左右それぞれ 3 cm ずつのマージンをとります.

タイトルは A4 用紙の上辺に約 3 cm のマージンを取り, センタリングします. 以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい.

和文タイトル: ゴシック体 20 pt フォント

英文タイトル: Times New Roman 12 pt フォント

(その下に約 1.5 cm のスペース)

和文著者名: 明朝体 12 pt フォント

英文著者名: Times New Roman 10.5 pt フォント

(その下に約 5 mm のスペース)

著者所属: 明朝体 9 pt フォント

E-mail address: Times New Roman 9 pt フォント

(その下に約 1 cm のスペース)

Key words: Times New Roman, italic, 10 pt, 5 語程度

著者と所属は肩付き数字で対応づけ, 上記のように並べて下さい. '**Key Words**' という文字はボールドイタリック体にします.

E-mail アドレスについては, 掲載を希望されない著者は記載の必要はありません.

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約 1 cm のスペースを空けてください.

本文は2段組で、左右のマージンは2 cm ずつ、段と段との間のスペースは約 6 mm とします。下辺のマージンは 25 mm です。

本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい。英数字は Times New Roman を用いてください。

(3) ヘッダとフッタ

タイトルページのヘッダに「第 12 回土砂災害に関するシンポジウム論文集，2024 年 8 月」を明朝体 9 pt で入れます。ページ数については記入しないで下さい。事務局が最終原稿に入れます。

3. 一般ページ

第 2 ページ以降の通常のページは上辺のマージンを 20 mm とします。それ以外はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

(1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

4. 見出し（見出しが 1 行以上に長くなるときはこの例のようにインデントして折るかえす

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは 3 段階までとします。第 1 レベルの見出し（章）はゴシック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を 1 行以上、下を 1 行程度空けて下さい。

(2) 第 2 レベルの見出し

第 2 レベルの見出し（節）もゴシック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに 1 行程度のスペースを空けて下さい。

a) 第 3 レベルの見出し

第 3 レベルの見出し（項）は、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第 3 レベルより下位の見出しは用いないで下さい。

5. 数式および数学記号

式や数学記号は次の式 (1)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z \, dz \quad (2)$$

のように本文と独立している場合でも、 C_D 、 $\alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

6. 図表

図表、写真はカラーでも結構です。

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部か下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2 段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1 段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を 1 段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には 1 行程度の空白を空けて区別を明確にします。

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

実験番号	水深 (m)	流量 (m ³ /s)
1	2.5	10.0
2	3.8	20.0
3	4.5	30.0

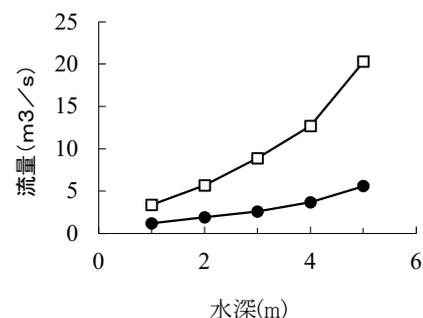


図-2 図のキャプションは図の下に置く。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ (9 pt) より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します。英文キャプションの場合は、見出しを Table 1 や Fig. 2 として下さい。

7. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように^{1),2)}上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないで下さい。

8. 最終ページのレイアウト

論文は6ページを越えてはなりません。また、1 段めと2 段めの末尾の長さがほぼ揃うように調整して下さい。

なお、原稿受理日は原稿の締め切り日とし、参考文献リストの最終行の次行に右詰めで書いて下さい。9 pt のゴシック体を使用して下さい。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置きます。

参考文献

- 1) 橋本晴行, 松永勝也, 南里康久: 1999 年 6 月福岡水害における氾濫水の挙動と水害体験者の対応・意識, 自然災害科学, 20 巻, 1 号, pp. 43-58, 2001.
- 2) 橋本晴行, 朴 琦瑛, 渡辺政広: 1999 年 6 月福岡水害時に発生した博多駅周辺の洪水および氾濫流の再現計算, 自然災害科学, 21 巻, 4 号, pp. 369-384, 2003.
- 3) 楠窪正和, 坂田賢亮, 池松伸也, 橋本晴行: 2012 年 7 月九州北部豪雨により矢部川流域で発生した流木群の氾濫・堆積に関する調査, 第 32 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 123-124, 2013.
- 4) 大仲修, 橋本晴行: 2012 年 7 月福岡県星野川流域で発生した豪雨時における住民の避難行動に関する調査, 第 32 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 125-126, 2013.
- 5) 国土交通省中国地方整備局: 平成 25 年 7 月 28 日島根・山口豪雨における中国地方整備局の対応について, 第 10 報 平成 25 年 8 月 12 日 13 時現在, 平成 25 年 7 月 28 日豪雨による中国地整管内の主な被災箇所, http://www.cgr.mlit.go.jp/saigai/H250728/index_tec.htm , 2013.
- 6) Smith, W.: Cellular phone positioning and travel times estimates, Proc. of 8th ITS World Congress, CD-ROM, 2000.
- 7) Robinson, S. K.: Coherent motions in the turbulent boundary layer, Ann. Rev. Fluid Mech., Vol.23, pp.601-639, 1991.

(2024. 5. 31 受付)